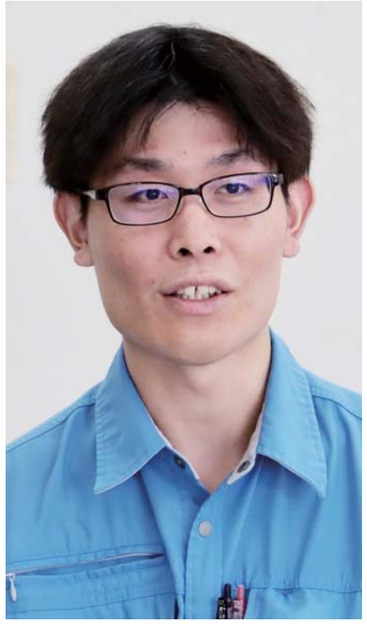
# 就職活動応援特集

## 全ての人により良い環境を



クリアウォーターOSAKA
事業部東部中浜管路管理センター
**大槻　周作さん**

**■社会の基礎を支える仕事**

クリアウォーターOSAKA（CWO）は、大阪市内を中心に下水処理場や抽水所（ポンプ場）の運転維持管理や管路の維持管理を担う、大阪市100％出資の企業です。私は大学で水処理分野を専攻した経験から入社に至り、今年で3年目になります。

現在私は管路、特に集水ます（家庭や事業所からの排水が流れ込む会所）および取付管（集水ますと下水道本管をつなぐ管）の維持管理を担当しています。具体的には新築建造物の着工に伴って既存の集水ますの点検を行い、場合によっては修繕工事を手配します。また、市民の方からの申告による取付管の詰まりの解消や日常的な点検作業も行っております。その他にも、ガスや水道といった道路埋設企業体の工事による損傷を防ぐため、事前に工事箇所付近の点検を行ったり、現地で関係者と立ち会ったりすることもあります。

**■経験とデータの蓄積を生かす**

私たちの業務は現場での作業が主であり、その上で設備業者や他企業関係者、市民の方と円滑にコミュニケーションを取ることが求められます。特に市民の方に対してはより分かりやすく説明する必要があり、そういった場面に直面する度に自分の経験の浅さを痛感します。私たちの業務では下水道に関する知識のみならず経験が非常に重要であると日々感じています。

一方で、データ入力や工事の手配といった事務作業については反復行為が中心になります。正確かつ速やかに終えられるよう、少しでも効率良くできないかと日々創意工夫しています。

ところで大阪市では古くから下水道が整備されているため、施設・設備に関する資料や点検履歴といったデータが膨大に存在します。以前社内業務改善にまつわるアイデアコンテストが開かれた際に、下水道管路の縦断図を簡易的に制作・確認できるツールを発表しましたが、このツールは膨大かつ整理されたデータを基にすることで作成できました。今後もこれらのデータを生かすことで、日々の点検業務がより効率的になるよう試行錯誤していきます。

**■市域外にも事業を展開**

冒頭でご説明した通り、私たちは家庭や事業所から出た排水が処理水として放流されるまでの一連の過程に携わっております。下水道に関連する業務の中で、いわば最も「直接的」な業務を担っていると自負しておりますし、私はそこにやりがいを感じています。

現在CWOでは大阪市の下水道行政で培ったノウハウを生かし、大阪市域外での技術支援等の業務も行っております。大阪市内外含めた全ての人にとってより良い下水道のインフラ環境を整えることを目標に、私自身も励んでまいります。

## 若手・中堅社員が語る

## 一人で成り立たない仕事

栗本鐵工所
パイプシステム事業部
業務部企画グループ
**吉田　樹來さん**

**■留学で知った水事情**

大学時代に語学留学した際、都市部から離れた水インフラが発達していない地域に行きました。現地の人々はスマホを使用しているにもかかわらず、生活用水は毎日2時間かけて川まで汲みに行く生活を送っていることが衝撃的でした。今まで当たり前だった環境は日本の高いインフラ水準のおかげだと実感した出来事でした。

この経験を機に、就職活動では間接的でもインフラ整備による環境改善に貢献できる仕事を意識するようになり、さまざまな企業のインターンシップに参加しました。その中で当社は、良い意味で社員一人ひとりが企業に染まっていない印象に惹かれました。社員の個性の強さから自分らしさを尊重して働ける環境だと感じ、入社することを決めました。

**■全てが生きた瞬間**

今年で入社5年目になります。私が担当している広報業務と研修業務は、社内外問わず、多くの方とコミュニケーションを図りながら、会社の窓口として対応・調整することが求められます。特に水道展等の展示会業務では、事業部の垣根を超えて多くの部門に協力を仰ぎつつ、さまざまな意見を一つの形にまとめなければならないため、日頃から相談しやすい人間関係を築くことを意識しています。

昨年に台湾で開催された展示会は、これまでの業務の中でも特に印象に残っている仕事です。日本パビリオンに参画する形であったので、社内外幅広く連携して準備を進めるとともに、現地では英語での製品説明にも努めました。他業務と並行しながら綿密に調整する必要があったため、苦労しました。

しかし、これまで学んできた水道事業の知識や大学で専攻していた英語を生かせたため、この経験は大きな財産になったと感じています。

**■自分自身のやり方で**

当社は、効率的な業務のために取得可能な環境や制度の充実にも力を入れています。毎週水曜日のノー残業デーやフレックスタイムなどを活用して、プライベート時間を確保しながら自分のペースで働けると思います。

また、厚生労働省が子育てサポート企業に認定する「プラチナくるみんマーク」の指定を受けており、育休や産休を取得しても戻りやすく、受け入れ体制が整っていることも特長だと思います。

学生の皆さんの中には、私と同じように上下水道以外の分野から興味を持たれる方もいるかもしれません。重要なのは、何を学んだかよりもどのプロセスを踏んだかだと思います。だからこそ、視野は狭めずに幅広く業界を見た上で、自分のやりたいことに近いものを選んで就活を進めてほしいです。

## "より良い設計"の思いで

三機工業
環境システム事業部 水エンジニアリング部
水エンジニアリング2課 主任
**小宮山　智さん**

**■図面を引く楽しさ**

大学院を修了してから三機工業に入社し、今年で11年目を迎えます。機械工学を専攻していたこともあり、周りも含めてメーカーやエンジニアリング関係の企業への就職を希望する人が多かったですね。

現在所属する水エンジニアリング部では、下水処理場や浄水場に関わる機械設備の設計を担当しています。部内には三つの課があって、その中で私はグループリーダーを務める立場にあり、後輩の担当者とタッグを組んで、設計を手掛けることになります。地方公共団体からの受注案件が発生したら、仕様書を確認しながら必要な機器の手配や、設備の設計を行うのが主な流れです。現場に赴いて、現地の状況を確認することもあります。

自分の手を動かして図面を書いている時が一番楽しいですね。現場で出来上がった設備を見ると達成感もあります。一方で、一つの案件を終えるごとに反省点が浮かんできますし、自分で満足のいった現場はありません。「もっと良い設計ができたのでは」という思いを次の現場でも生かしていきます。

**■コロナ禍での奮闘**

入社直後は、先輩について回りながら現場への機械の納入案件を経験した後、2年目には都内の下水処理場の現場で設計案件を担当しました。初めての設計担当ということもあり、今でも思い出深い現場の一つです。

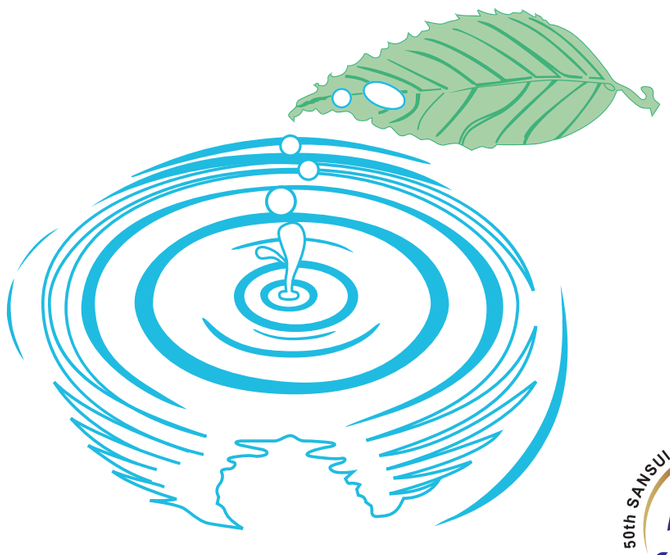
その後、福岡県内の下水処理場で、元請負者として現場代理人を務めたこともあります。現地に約2年間赴任し、現場事務所に詰めながら施工管理を担いました。ただ赴任から半年ほど経過した頃に新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言が発令されてしまい、苦労の連続でした。当時、同じ処理場内でわれわれの案件と密接に絡む施設整備が進んでおり、緊急事態宣言下とはいえ決められた工期を守りたい一心から、協力企業さんとの調整を重ね、何とか期日に間に合わすことができた時は、ホッとしたのを覚えています。

**■雰囲気を大事にして**

もともとモノづくりが好きで、その中でも設計を仕事にしたくて当社を志望しました。当社の選考過程では、若手社員の座談会を聞いたり、内定をもらった後の懇談会での社員の方との交流をしたりする中で、良い雰囲気の会社だなと感じていました。

これから企業を探す学生の皆さんにも、説明会などで感じた会社の雰囲気を大事にしてほしいなと思います。

水と人の豊かなくらしをつくる



50th SANSUI CONSULTANTS CO.,LTD. 50th 1974-2024

(公社)全国上下水道コンサルタント協会 会員
(一社)管路診断コンサルタント協会 会員
株式会社 三水コンサルタント　代表取締役社長　山﨑義広

大阪本社　〒530-0005　大阪市北区中之島6丁目2番40号　TEL.(06)6447-8181㈹　FAX.(06)6447-8196
東京本社　〒112-0002　東京都文京区小石川5丁目5番5号　TEL.(03)5976-9060㈹　FAX.(03)5976-9077

水と環境の Consulting & Software
NJS
公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社NJS
代表取締役社長　村上 雅亮
〒105-0023
東京都港区芝浦1-1-1　浜松町ビルディング14階
TEL：03-6324-4355(代表)　FAX：03-6324-4356
URL：https://www.njs.co.jp/